



田中作次

田中 作次
2012-13年度国際ロータリー会長



高砂

No. 28

Takasago Rotary Club

週報

クラブ会長方針

「ロータリーを楽しもう」

運営方針

- ①ロータリーファミリーで親睦の輪を広めよう
- ②ロータリアンの自覚とロータリークラブのイメージの向上
- ③長期展望でロータリークラブを考えよう
- ④60周年記念事業を成功させよう

例会記録 (2013. 2. 15 (金)) 通算2,928回

◆開 会

◆唱 歌 ロータリーソング (我等の生業)

◆「四つのテスト」唱和

◆ゲスト紹介

高砂プロバスクラブ会長 小田盛稔氏
プロバスクラブの皆様10名

◆歓迎歌「松の緑」



◆プログラム予定

2月22日 (金)	3月1日 (金)	3月8日 (金)	3月13日 (水)
卓話 自己紹介 田代和幸会員	卓話 自己紹介 堀 直樹会員 於：高砂医師会館	卓話 ヘラクレスについて 加納基宏会員	合同例会 於：ウエディングパレス 鹿島殿

◆出席報告

本日	2月15日	会員数50名	出席者	31名	出席率	73.80%
前々回	2月1日	会員数50名	修正出席者	44名	出席率	100.00%

◆MAKE-UP

坂井 智代幹事	新世代奉仕セミナー	12月8日 (2/1)
桂田 重信会員	高砂青松RC	2月6日 (2/15)
丸山 恵右会員	e-CLUB	2月14日 (2/15)
守光 隆会員	e-CLUB	2月6日 (2/1)
堀 直樹会員	e-CLUB	2月1日 (2/1)
江角 清次会員	e-CLUB	2月11日 (2/15)
中木村 明会員	e-CLUB	2月13日 (2/15)

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

西田 秀雄会員……プロバスクラブの皆様をお迎えして。2月7日神戸新聞に載せて頂いて。
山本 広志会員……ようこそ高砂プロバスクラブの皆様お越し下さいました。小田様の卓話楽しみに致しております。

山名 克典会長……プロバスクラブの皆様をお迎えして。ようこそお越し下さいました。

坂井 智代幹事……高砂プロバスクラブの皆様、本日はようこそお越し下さいました。
小田会長様卓話楽しみにしております。

プロバスクラブ……心付

◆幹事報告 (2,928回)

○ガバナー事務所からの連絡

・第14回ロータリー囲碁大会のご案内 2013年4月11日(木)～14日(日)
韓国・大邱(テグ)

・ハイライトよねやま155号

2013学年度新規米山奨学生が決まりました。

合格者519人(応募者数1,532人) 合格者国籍は、中国44.3%、
韓国15.4%、ベトナム10.0%、台湾4.6%

・今年度のGSE(グループ研究交換)の来日チームの研修日程表が届いております。

○姫路東ロータリークラブより「創立40周年記念式典のご案内」が届いております。

日時：平成25年4月20日(土)午後3時30分～

場所：姫路キャッスルホテル3階 鳳凰の間

○その他 ・明石南RCより週報が届いております。

◆会長の時間

本日は、プロバスクラブとの合同例会となっております。本年度運営方針の一つの「ロータリーファミリーで親睦の輪を広めよう」とありますが、中々十分な親睦がはかれておりません。7月12日プロバスクラブ例会に出席させていただいて以来の皆様との再会です。今後さらに親睦を深めたく思います。60周年記念式典には、皆様の御出席宜しく御願いたします。



山名克典会長

ところで先週（2月9日）東播第2グループのIMが開催されました。全員登録され多数の参加ありがとうございました。このIMのなかで神木董パストガバナーのお話しとしてIMガバナー補佐の意向によって開催しても、しなくてもよいとのこと。次年度は加古川平成クラブ主催で、平成26年2月に開催されるとのこと。次々年度は我が高砂ロータリークラブから、ガバナー補佐を輩出し、IMを開催するか否かとの事です。ガバナー補佐の意向に従い、全面的な協力をしたいと思います。

本日のプログラムとして、プロバスクラブ会長の小田盛稔氏による卓話として「親鸞聖人の教え」をお話しいただきます。宜しく御願いたします。最後に、米山奨学生の件ですが、ガバナー事務所より高砂ロータリークラブへ受け入れの依頼がありましたが、諸般の事情により、本年度はお断りしております。御報告しておきます。

◆本日のプログラム

—— プロバスクラブとの合同例会 ——

卓話「親鸞聖人の教え」

高砂プロバスクラブ会長 小田盛稔

親鸞聖人の教え（要旨）

1. 親鸞聖人のご生涯

親鸞聖人は今から約750年前、京都にお生まれになった。9歳のとき、自分が死んだらどうなるか？解決方法は仏教しかないと考えて出家されました。比叡山で約10年間修行され、19歳の時、今死んだらどうなるかの問題は解決することができませんでした。

29歳の時、天台宗の教えでは到底救われないと考えて比叡山を下りられ、京都吉水の法然上人を訪ねて弟子とされました。しかし、「一向専念無量寿仏（阿弥陀仏のみを信じなさい）」と絶対他力を強く主張したために、35歳で越後へ流刑に会われました。35歳から約5年間越後でお暮らしになり、40歳の頃、関東へ布教に行かれました。その後、60歳を過ぎてから京都へ帰られました。京都では約30年間執筆され、90歳でお隠れになりました。その間、多くの書物を執筆されました。うち、『教行信証』が主著です。

『教行信証』の巻頭に「謹（つつし）んで浄土真宗を按（あん）ずるに二種の廻向（えこう）」あり、



一つは「往相（おうそう）」、二つは「還相（げんそう）なり」と述べられています。「往相」とは阿弥陀仏のお力によって必ず浄土へ行けること、「還相」とは浄土から帰ってきて苦しむ人々を助けること。これを「二種の廻向」といいます。

親鸞聖人の『御臨末の御書』（現代語訳）

「まもなく私の、今生は終わるであろう。一度は弥陀の浄土へ還（かえ）るけれども、寄せては返す波のように、すぐに戻って来るからな。一人いるときは二人、二人いるときは三人と思って下され。嬉しいときも悲しいときも、決してあなたは、一人ではないのだよ。いつも側に親鸞がいるからね。」

2. 月刊誌『とどろき』による親鸞聖人の教え

①「後生の一大事」（平成23年5月号）

未来が不安で皆んな苦しんでいます。しかし、最も大きなものが「死後、どうなるかハッキリしない」不安ですから、仏教ではこれは「後生の一大事」と言います。阿弥陀仏への合掌礼拝は「後生の一大事」を念じてのこと。「後生の一大事」を弥陀にうちまかせ、永遠の幸せを獲ることが目的です。死後の後生は、信心獲得しているか否かで決めます。

②「慈悲」（平成23年7月号）

仏教の目的は「慈悲」という言葉です。「慈」は苦しみを抜く働き（抜苦）、「悲」は幸せを与える働き（与楽）をいいます。お経とは約2,600年前インドで活躍されたお釈迦さまのご説法を書き残したものです。『正信偈』は親鸞聖人による7文字120行の詞です。

③「供養」（平成23年8月号）

生きている今、阿弥陀仏に救い摂（と）られた人は、死ぬと弥陀の浄土へ往って仏のさとりを開き、縁のある人を救うことができる。それが真の供養なのだと言われています。未来が明るければ現在も明るくなる。現在が暗いのは未来が暗いからよ。後生暗い心こそ全ての人の苦しみの根元なのです。いつ死んでも往生間違いなしと、行く先を明るくして下さるのが弥陀の大慈悲心です。

④「往生一定」（平成23年12月号）

親鸞聖人は御臨終の御書では、「親鸞、この世の終わりが来たら、弥陀の浄土へ帰る」と言っておられます。しかし、「誰でも彼でも往生成仏できるものではありませんよ」という。極楽へ往（い）けるのは「現在、弥陀に救い摂（と）られた人だけが死ねば極楽へ往けるのだ」という。極楽か地獄か？現在、弥陀への救いの一念の信心で決めます。

⑤「因果の道理」（平成25年1月号）

お釈迦さまの教えは今日「一切経」に全て書き残されており、数は7千冊以上にのぼります。その「一切経」に一貫して教えられているのが、「因果の道理」です。これが仏教の根幹であります。その「因果の道理」から、お釈迦さまは「自分の運命をつくるのは、自分の行いなのだよ」と仰っています。

「因果」とは「原因」と「結果」ということです。「善因善果」（善い原因が善い結果を引き起こす）、「悪因悪果」（悪い原因は悪い結果を引き起こす）、「自因自果」（善も悪も自分に現れる結果の全ては自分のまいたものばかり）がその内容です。また、「自利利他」（相手を喜ばせるままだ自分の幸せになる）の精神で実践していきましょう。



会長 山名 克典 幹事 坂井 智代
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 佐野 敏晴
例会場 高砂商工会議所2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/